



4 杉並第 43156 号
令和 4 年 11 月 22 日

杉並名誉区民審議会
会長 高 武征 様

杉並区長 岸本 聡子



杉並名誉区民（第 14 号）の選定について（諮問）

下記の者を杉並名誉区民として定めることについて、杉並名誉区民条例第 3 条第 2 項の規定に基づき、諮問します。

記

1 令和 4 年度 諮問第 1 号

対象者	氏名	別府 輝彦 (べっぷ てるひこ)
	住所	[REDACTED]
	生年月日	[REDACTED]
	現職	日本学士院会員、東京大学名誉教授

2 諮問の理由

発酵学の分野において、広範な探索により微生物に由来する様々な新しい物質・現象を発見・解明する一方、遺伝子組換え技術を利用して動物由来の有用酵素の生産を実現するなど多数の先駆的研究成果を上げ、斯学の発展に多大な貢献をした。

氏の業績は例えば、青カビによる新しいアロイソクエン酸醗酵の発見、大腸菌の致死性蛋白コリシンの作用機作の解明、独創的な検出系を利用した微生物由来の新奇生理活性物質の発見、放線菌の二次代謝と形態分化の分子制御機構の解明、我が国で最も初期の遺伝子組換え技術体系の確立を伴うウシ及びケカビ由来の凝乳酵素遺伝子のクローン化と微生物宿主での生産など、多岐にわたっている。

なかでも、チーズ製造に実用されるウシ第四胃第四由来の凝乳酵素キモシンを大腸菌により生産したことは、食品製造に遺伝子組換え技術を適用した世界初の例として画期的であった。また、抗カビ抗生物質の一種トリコスタチンが、ヒストン脱アセチル化酵素の阻害を介してガン細胞を特異的に殺すのを見出して、抗がん剤開発に全く新しい方向性を示した。それらとは別に、ストレプトマイシン生産放線菌においてその生産を誘導するホルモン性因子として働いている A-ファクターの作用機構を分子レベルで解明する一方で、観察そのものが困難な細菌同士の新規共生系を発見して次世代の微生物生態学への先駆けとするなど、微生物学の基礎に関わる多くの重要な貢献をしている。

以上のように氏は、微生物学の基礎から応用にいたる幅広い分野において優れた業績を上げ、発酵学・応用微生物学の発展に大きく貢献したものであり、その功績は極めて顕著である。

このような功績が評価され、令和 4 年 11 月 3 日に、文化勲章を受章した。

杉並区民にとって大きな誇りとなるものである。